

第5回PI委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果

1 会議概要

日時：平成24年7月14日（土）13：00～14：45

場所：静岡県東部総合庁舎 別棟2階 会議室

出席委員：石田委員長、寺部委員、高井委員、目加田委員

傍聴人数：28人（26人提出）

2 アンケート結果

①オープンハウス・車座談議について

- 「オープンハウスや車座談議での意見を集約する目的で行う勉強会ならば、意義がある」という委員の意見はそのとおりだ。
- 委員は「幅広い年齢層から意見を聴いているから良い」と言っていたが、高齢者の意見ばかりだ。学生の方が長く、強く影響を受けるので、彼らの意見を反映させないと、高齢者の意見が強くなってしまふ。
- 「駅周辺や原地区の人だけでなく、物流関係者の意見を聴くべき」という委員の指摘どおりだ。
- 今回の傍聴によって、オープンハウスの形式、方法、目的が理解できた。
- オープンハウスの目的が、鉄道高架事業推進の宣伝に偏っては時間とカネのムダ。
- 車座談議は参加者の了解を得て、文書化（要旨のみ）して、ほかの会合の状況を理解する手段にすればよい。
- 賛成（的）、反対（的）？意見を集めるだけでなく、これからが大事。
- まず意見を広く求めるべき、という意味では良い事だと思う。
- オープンハウスが主眼力とするのは何とも云えないが、悪くはない。しかし、これは聞きとりにすぎない。これをどう使うのか。
- オープンハウス、車座談議において、何が問題であるのか、推進にしろ、見直しにしろ、論議のポイントを示して、論議、意見を求めるべきではないか。先のばし的手段ではダメ。
- これだけのサンプリングデータだけで資料とするのはどうかと思う。
- オープンハウスや車座談議についても個人の写真をとって反対する人の顔をさらすべきだと考える。公人として看板をしょって参加する推進の人と無責任に反対する人の差を明らかにしてほしい。

②勉強会について

- もう少し方法、目的を明確にすると共に、考えられる「テーマ」も提示して欲しい。
- 勉強会をなるべく早く立ち上げ、意味ある深い話し合いを進めて欲しい。
- なぜ勉強会が開けないのか？推進、反対のそれぞれの思惑が開催を困難にしている。社会状況は変化しており、これ以上の先送りはマイナス側にしか動かない。
- 本気で沼津市のためにどうあるべきかを議論できる勉強会の開催ができるように期待する。
- 「高架化ありき」ではなく、「考える策を予断なく検討」で、一刻も早くスタートを。
- 勉強会に参加すると反対派の人が家まで押しかけてくると言われているので怖い。勉強会は必要ない。
- 勉強会の意図するところがわからないという意見にびっくりしたが、なるほどと思った。
- 県内部の勉強会に私を呼んで、話を聞いて下さい。
- 勉強会を沼津駅周辺で実施するなら、勉強会そのものからオープンな議論なので、〇〇会役員・代表という選別ではなく、広く各年齢層から市民・企業等決定していくべきである。
- P I が予断なく、オープンな議論と言うなら、勉強会の人選を高架に関心のある「団体」から選ぶのではなく、市民・事業者・利害関係人から直接個々人選すべき。
- この事業に関わる問題意識の共有化や将来のまちづくりのあり方などを議論するためにも一刻も早い「勉強会」の開催が求められていると思う。
- 早く勉強会を開いて欲しい。意見を言いたい。
- 「未だ多くの市民が勉強会の目的が判らないのでは」との委員コメントについて、県に対して、私は十分理解した上で「鉄道高架ありき」では、勉強会に参加しないと申し入れてあるのに、本日の会議ではそのことについて一切言及されていなかったのは不可思議だ。

③P I 委員に対する意見

- 委員が6人中3人しか参加しないのは誠に残念(目加田さんは1時間遅れで参加)
- 石田教授のスタンスは公正、オープンであり適任、敬意を表す。
- 事業がうまく進めば、P I 方式は一定の評価を得られるが、事業が遅れたり、頓挫したら静岡県だけでなく、日本においてP I 方式は一切導入されなくなる。P I 委員がんばれ。
- 委員の前向きな認識が感じられない。
- 委員の方々が直接市民の声を聞いていないのにちゃんとした議論ができるのでしょうか？(参加者の意見が伝わるのか?)
- 机上のコメントのみでなく、現地、人に聞くべき事があるのでは？それが判断の一つになり得る。

④ P I 委員会について

- 土曜日実施、かつ沼津での実施は適切。
- 5回目にして、初めて現地で開催となり驚いている。現地でやるべきだ。
- P I 委員会が6人中2人欠席、1人遅刻とはいったい何の為に今日開催したのか、事前に話し合うべきことで、今日のようなことは回避された筈。傍聴者として、市民として、大変失望をした。
- 委員の方の答弁がひとりというのは如何なものか。県市も全く顔が見えていない。何の為に P I 委員会だったのか良くわからなかった。
- 住民の声を聞いているという行政のアリバイづくりのための P I 委員会という印象を強く感じた。
- どうして高架事業が必要なのか、なぜ反対するのかという切り結ぶ議論（内容）がほとんどなく、P I 委員会の経過報告に一時間もかけたわりに、内容に乏しく、傍聴していて“時間のムダ”を実感した。一体 P I 委員とは何のための委員会なのか不明である。
- 委員が3人出席、学者（沼津の人ではない）ばかりではどうもいつまでたっても事業の内容や方向に具体策を作れないような気がする。
- 「推進ありきではないか」と見る人も居る様だが（資料から）どうもこの P I は「ありき」にオブラートを掛けているような印象であった。
- P I 委員会として、何を到達点とするか不明。本質をはなれて、枝葉の論議になりすぎているのではないか。
- P I 委員会というのは、P I プロジェクトのすすめ方を議論する場なのですね。（知りませんでした。）

⑤ 今後の進め方

- 利害が直接からむ人ばかりでなく、遠方から来沼する人にも高架の意見を聞くことで全体像が見えてくる。広い視野で考える。
- 前提環境が激変しているのに、それらの見直しはどうなっているのだろう。P I 議論より、コストパフォーマンスを（金の出处、将来へのツケ、効果等に）マジメに論ずるべきと思う。
- 反対の人に賛成の意見を、賛成の人には反対の意見を、しっかりぶつけてみる事は出来ないだろうか？変わるかも知れない。いずれにしてもまだじっくり事（P I）を進めて欲しい。
- 沼津駅の拠点開発事業・土地区画整理事業・市街地再開発事業を東部の核として考えて頂き、その手段として高架化が一番有効である。今後のまちづくりの中で貨物移転がボトルネックになっているので、そこを中心に意見を求めて欲しい。
- 全市民参加の住民投票で決着をつけるべきではないか。この場合は県・市は中立的立場で、推進・反対の主張を分かりやすく紹介すべきだと考える。
- これまでの経過の中で、基本の問題が、検討や明確化が出来ていない中、次のステップの話を進めようとしても、解決、改善の方向に向わないのではないのでしょうか！
- （P I 実施計画に則った）スケジュール前に結論を出して欲しい。
- なぜ、推進と反対（見直し）の二項対立になっているかに論点を絞るべきであった。不幸な人を生まない原地区への貨物駅移転と沼津市の財政的負荷の2点。
- 県も沼津市も、P I は、23.6.23の県方針に則り行うといってる。P I の真の狙いはあく迄、鉄道高架をやるうとしているのか？
- 市民等との対話を通じ、オープンに議論とは具体的にどうするのか。
- 結論は誰がどのように出すのでしょうか？

⑥情報公開について

- 今まで出された市民の意見など、大事に扱っていただき、しっかり記録され、提示、公開されており大変良い。
- 勉強会の予定を早めに公表して欲しい。
- 車座談議や勉強会での記録は発信者の了解の上、とっておくべき（言った、言わないという後々の揉め事はばかげている）
- 車座談議、勉強会は自由な意見、本音を聴くためには非公開。記録はテープ（出席者の了解をとって）で記録し、正確なものとするべき。
- コミュニケーションの記録は、出来るだけ詳細に残すことは、良いと思う。しかし、その全てを公開すべきであるとは思わない。

⑦その他

- 首都圏に本社がある大企業の役員が、沼津に来た折に、海の方へ行く時に暗い洞窟のような所を抜けて行って驚いたと言っていた。
- 鉄道による南北分断ではなく、沼津市民の心が分裂していることが問題。
- 何の事業でも多少の反対者はいるはず。一握りの反対者のために、沼津、県の東部の発展までつなげる事を考えると、一人でも不幸は出さないとする知事の考え方は間違っている。今の知事では県の東部は絶対によくならないのではないか。
- 反対派はまちづくりを遅らせたことについて責任を感じているのだろうか？西武撤退に対する経済的損失を反対派に請求したいくらいである。
- 沼津駅周辺総合整備事業や原地区のまちづくりは、沼津市が行っているし、これからは計画推進をするものとする。しかし、沼津市のスタンスが見えない
- 沼津市の50年・100年先を考えて見れば、橋上駅では、車イス・妊婦・高齢者にやさしくないものであり、昭和の時代の立体歩道橋の考えと同じである。
- 県と市との意見相違は調整していかないと今後のP Iの進め方に支障をきたす。
- 賛成・反対の主張が長年くり返されP Iを通じ合意形成ができるか疑問に思っている。推進・反対の双方が納得するハッピーな結論はないのではないか。
- 高架事業は本当に必要なのか疑問、沼津市街地の活性化は別の方法でやるべきだと思っている人が多い。財政面でも支払能力が無いと思う。補助金目当ての事業はやめにして、本当に街の発展につながる事にお金を使うようにしたい。そうであれば市民は動くと思う。市の能力に不相応の事業になっているのではないか。
- パブリックコメントへの評価が全くされていないのは何故か？8割強の人が、見直し、反対しているのに。
- 推進方針の主旨がわからない。

3 インターネット中継結果

- アクセス台数 パソコン 29 台
- 延べ視聴時間 11 時間